

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 23
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	20	(回答者数) 17
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援の実施ができてきていること。	定期的に療育研修を行い、質の向上に努めている。また、他職種のスタッフを配置することで、専門的支援の実施も行っている。	専門職の幅を広げる(言語聴覚士、臨床心理士等)ことで、より充実した支援が行えるように対応して参ります。
2	こどもは通所を楽しみにしている。	・『共動・共感』、称賛の声掛けを行うことで、児童のストレスレベルを下げるようにしています。 ・児童の興味に寄り添い遊びを作ることで、児童の「楽しい」を引き出し、ワクワク・ドキドキ感を作るようにしています。	児童の興味に寄り添いながら遊びを作りつつ、療育士が遊びを展開することで、飽きないように工夫していきます。
3	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング) 家族等も参加できるように工夫している。	体験説明の際、ペアレントトレーニングについての話を行い、直接支援だけでなく、保護者支援も充実している旨を伝達している。	spark運動療育について、より深めていただくために、保護者の方に分かりやすく支援方法等を伝えていくようにして参ります。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会が十分ではない。	地域との関わりを持とうとしているが、機会を作れていない。	公園療育の際、地域の児童と一緒にドッジボールやサッカー等の遊びに誘い掛けたり、地域のイベントにご利用者を誘い掛ける等、検討して参ります。
2	父母の会の活動支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流会が十分ではない。	保護者の方が参加できるイベント(個別、小グループでの相談会)を実施しているが、定期的で開催している訳ではない。また、個別相談が多い為、他の保護者の方同士の繋がりは少ない。	テーマを決めて、共通の悩みを持つ保護者の方にご参加いただける交流会を検討して参ります。
3	定期的に通信やホームページ・SNS等の活用が不足している。	ホームページやSNSはあまり活用しておらず、活動内容の周知等は、保護者の方へ口頭説明が主である。	sparkの認知度を高める為にも、SNS等を活用し、周知していきけるように進めて参ります。